

玉名高等学校定時制 平成29年度学校評価表

1 学校教育目標
(ア) 「平成29年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を踏まえ、本校の三校訓 「至誠・剛健・進取」の具現化に努め、徳・体・知の調和がとれた全人教育をめざす。 (イ) これまで積み上げてきた本校の教育方針に基づき、教職員が一体となって家庭や地域との連携のもと、活力ある学校づくりをめざす。

2 本年度の重点目標
<p>本年度教育スローガン「夢実現・可能性への挑戦」 ～ 見えない学力の充実 ～</p> <p>① 学校行事の充実と生徒の主体的な学校生活への指導と助言 ② 生徒の職業観の涵養と就業率向上のための個に応じた情報の提供と学力定着の指導 ③ 保護者に対して、進路・保健だよりやHP等を通しての本校教育への理解と協力体制の構築</p>

●評価 4・良くできている。 3・概ねできている。 2・余りできていない。 1・できていない。
A : 4.0～3.5 B : 3.4～3.0 C : 2.9～2.5 D : 2.4～1.0

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
項目	小項目					
学校 経営	学校の組織力の向上	学校組織の円滑な運営と活性化	共通の課題解決に向け、職員間の情報の共有を図り、連携を密にする。	職員会議や各委員会、職員連絡会等での情報を周知徹底する。	B	概ね全体会での情報の共有や連携した取り組みができています。各々の職員間での情報伝達を更に密にしていこう。
		職員研修の充実	人権教育、生徒理解(生徒指導、特別支援)、不祥事防止等で実施する。	総務部で年間計画を調整し各係が企画のうえ、全職員で実施する。	B	年間計画に従って、意義のある研修ができた。次年度も職員の要望と課題を見据えた研修を検討していく。
	安全な学校づくり	施設の安全確保	年間2回、安全点検表による点検を実施し、確認後すぐに危険箇所を改善する。	前期、後期に各1回、総務部が企画し、全職員で実施する。	A	6月と1月に全職員で安全点検を実施し、特に改善する箇所はなかった。
		緊急時の安全確保と緊急事態対応の徹底	危機管理マニュアルの周知徹底と安全意識の向上に取り組む。	救急救命講習や防災・消防訓練等を総務部が企画し、全職員・生徒で実施する。	A	全職員・生徒で5月に救急救命講習を、11月に防災・消防訓練を実施した。生徒の参加率も良く実りあるものとなった。
学力 向上	授業の充実	学習内容の充実	年間指導計画を作成する。 基礎学力を定着させる。 視聴覚・ICT機器を活用した授業実践を推進する。	教務部が企画し各教科担当で立案作成して取り組む。	C	各教科で年間指導計画を作成し、見通しを持って授業を展開することができた。ICT機器を授業で積極的に使用する教科が増えている。譲り合って使用している現状もあり、ディスプレイ機器の更なる拡充も必要であると思われる。
		研究授業の実施	わかる授業を実践し、授業の改善を進める。	公開授業や研究授業を実施し、「かたる会」で教員同士が教え合い、研究を深める。	C	「授業かたるウイーク」と称して職員相互に授業参観を行い、授業の研鑽と生徒理解に努める期間を設定した。また今年度より、同期間を保護者や近隣中学校の先生方にも公開した。多くの方の参観があり、御意見をいただくことができた。これらの御意見や他の教員の優れた点を取り入れた、授業の改善に努めた。
		授業評価の実施及び高い評価	授業に関する生徒アンケートを実施し、満足度を87%以上にする。	前期末の9月と後期末の2月に、教科担当者が各クラスで授業に関するアンケート調査を実施する。	B	年に2回、生徒による授業評価アンケートを実施し、生徒の意見も取り入れて、ユニバーサルデザインを念頭に置いた授業改善に取り組んだ。学校評価アンケートでは授業の充実について90.0%の生徒から肯定的な評価を得ることができた。全ての生徒にわかる授業を目指して、更に研鑽を重ねていく。
	個に応じた学習指導	きめ細かな指導の充実	授業や「玉定チャレンジ」を通して到達度を把握し、指導方法を改善する。	教科担当が学期毎に指導状況を見直し、工夫する。	B	5月から継続して全職員で「玉定チャレンジ」を実施した。生徒の積極的な姿勢が見られ、資格取得では、多くの合格者を出した。

キャリア教育 (進路指導)	進路意識の高揚	進路目標設定の取組	玉名公共職業安定所と連携し、情報の入手および提供により、4年次生の100%の進路決定を目指す。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	B	卒業予定者3名のうち2名は昨年中に進路先が決定した。残り1名についても、卒業の見通しが立ち次第、進路先が決まる予定である。
			個別面談等を通して就業を促し、生徒の就業率を80%以上にする。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	C	全職員で未就業の生徒の就労を促したが、事情により就労できない生徒が数名在籍していることもあり、4月から12月まで45%~70%前後の就労率であった。
			個別学習会「玉定チャレンジ」を通して、基礎学力の向上および進学指導を行う。また、各種資格の取得を促し、卒業時に履歴書に書ける資格が1つ以上あるようにする。	進路指導部および教科担当者が企画し、対象生徒の指導に取り組む。	B	5月から継続して全職員で「玉定チャレンジ」を実施した。全生徒の半数以上が参加し、ワープロなどの商業関係の資格取得にとっても意欲的に取り組む姿が見られた。
		キャリア教育の推進	未就業の生徒を全員インターンシップに参加させる。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	C	希望者7名のうち6名が実施(1名は就業したため辞退)した。そのうち5名は未就業の生徒であり、将来の進路選択の際の大きな参考になった。
			進路講話や卒業生との懇談会を実施し、生徒全員を参加させる。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	A	進路講話および卒業生との懇談会を6月と10月に実施し、約8割の生徒が参加した。
			年間を通して進路ニュースの発行を定期的に行い、保護者に送付する。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	A	昨年末までに5回の進路ニュースを発行し、成績表と一緒に送付した。
生徒指導	心豊かな人格の育成	基本的な生活習慣の育成	挨拶、時間の厳守、問題行動の防止を進める。喫煙等の問題行動、盗難事案の発生件数「0」を目標に取り組む。	全職員の共通理解と共通実践で取り組む。	B	特別指導は今年度これまで1件である。登校時間や中抜けといった時間の厳守に課題が残った。全職員の共通理解を再度、徹底して実践していく必要がある。
		交通安全意識の向上	登校指導を実施する。交通安全教室を実施し、交通事故事案の発生件数「0」を目標に取り組む。	生徒指導部が企画し、全職員で実施する。	B	毎日の登校指導を全職員で実施できた。考査期間には全職員で学校周辺の巡回も行い、今年度は目標の交通事故0件で推移している。
		自主自律の精神の育成	生徒会執行部を中心とした各種行事の充実と、昨年度からの新しい取組である、前期のクラスマッチや年度末のレクレーション企画をより充実したものとする。	生徒指導部と生徒会が企画し、学校全体で取り組む。	A	今年度もクラスマッチや各種行事は滞りなく実施できた。1月には宮崎東高校との交流会や年度末には生徒会企画など、新しいチャレンジも積極的に実施することができた。
人権教育の推進	「命を大切に する心を 育む」指導の 充実	職員研修の推進	年間計画を作成し、全職員で研修に参加することで、人権意識の向上と適切な対応能力を身に付ける。	人権教育係が立案し、全職員で取り組む。	B	全日制と合同で開催される研修会などで、研修を深めることができた。
		HR活動、教科指導における取組の推進	HR活動、各教科における人権教育の取組を策定する。	教頭、人権教育係を中心に全教科全領域で取り組む。	C	各教科内で十分に実施できている。HRは時間の確保が難しく計画の見直しを行いたい。
		家庭への啓発の推進	人権教育講演会等の案内や定時制保護者会等における講話で啓発を進める。	人権教育係が立案し、学校全体で取り組む。	B	保護者会で講話や説明を実施し、啓発活動を行うようにしたい。
		指導内容の工夫と充実	「命を大切に する心を 育む」指導プログラムに基づいて指導を実施する。	人権教育係と生徒指導部で企画・立案し、学校全体で取り組む。	B	各HR、教科の協力により、自分だけでなく他者への思いやりの気持ちを高めると同時に、自他の命について深く考え、大切にしようとする心を養う機会となった。

いじめ問題への対策	いじめ問題への対策	いじめが起きないための日常的取組の推進	生徒が互いに思いやり、認め合える人間関係を醸成し、いじめを見逃さない体制づくりを推進する。 いじめ事案の発件数「0」を目標に取り組む。	生徒指導部と人権教育係で企画し、学校全体で取り組む。 HR活動でいじめ問題について取り上げる。 いじめ発見のためのアンケート等を実施する。	B	心のアンケートを実施して全校生徒のいじめ問題の実態を把握することができた。校内についてのいじめは0件であった。しかし、後期には盗難事件が発生した。これを機に、いじめを見逃さない体制を再確認して、全校集会での呼び掛け等、啓発にも努めたい。
		職員の資質能力の向上	いじめ、カウンセリング、生徒理解やネットいじめ等に関する校内研修を推進する。	生徒指導部、人権教育係及び保健環境部で連携し、学校全体で取り組む。	B	特別支援教育の外部機関と連携して、生徒理解に努めた。集団づくりでは生徒と一緒に職員もプログラムを行うなど、学校全体でよい取組ができた。
		家庭への啓発の推進	人権教育講演会等の案内や定時制保護者会等における講話で啓発を進める。いじめ発見シートの説明を行う。	生徒指導部と人権教育係で企画し、学校全体で取り組む。	C	保護者会でいじめのサイン発見シートを配付して説明を実施した。家庭での小さな変化も見逃さないように啓発を行った。
特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒への適切な対応	個々の生徒の正確な実態把握と支援	個別の取組を組織化し、個に応じたフェイスシートを基に支援計画、指導計画等を作成し、活用する。	教頭、特別支援教育コーディネーターが中心となり、気づきメモを活用し、困り感を持つ生徒を全職員で支援する。	B	支援計画、指導計画を作成した。指導計画の見直しができなかった。
保健環境指導	健全な心身の育成	心の悩みを持つ生徒の把握	担任や各部と連携し面談の機会を増やす。	保健環境部が企画し、全職員で実施する。	B	必要な生徒に対して、面談を実施できた。
		健康診断後の治療率向上	検診結果を基にした自己の健康の保持増進や治療の促進を行う。	保健環境部が企画し、全職員で取り組む。	C	事後措置によって、受診する生徒もおり、意識付けにはなっている。
		啓発活動の推進	保健だより（環境教育を含む）を年5回発行する。	心のケアの方法やイコイバの内容や感想を盛り込み定期的に発行する。	B	保健だよりは、4回目を発行予定である。
		外部講師による講演会の実施	薬物乱用防止教室（年1回）や性教育講演会（年1回）を開催する。	保健環境部が企画し、全職員で実施する。	A	外部講師による講演会は薬物乱用防止、性教育で実施できた。保健の授業で外部講師による講話も実施できた
環境美化と環境教育の推進	環境美化の推進	職員清掃日（毎週月曜）、定期清掃日（毎週木曜）を定める。	保健環境部が企画し、全職員・生徒で実施する。	B	清掃に関しては、定着しているので、継続していきたい。	
	学校版環境ISOへの取組	具体的推進計画を策定し、周知徹底する。	保健環境部が企画し、全職員・生徒で取り組む。 生徒保健委員会で牛乳パック等の回収を行う。	C	保健委員による牛乳パックのリサイクルは継続できており、ISOへの取組も実施できている。	
地域・家庭との連携	情報の発信	学校HPの充実	学校HPを行事終了後の早期に更新し、記載内容を充実させる。	HP更新係が立案し、原稿作成や校正等に全職員で取り組む。	A	行事等終了後すぐにHPの更新を行い、適宜活動の様子を発信できた。
	連携の強化に向けた取組	保護者との連携	保護者会（4月、7月）の内容の精選を図り、出欠の返答ならびに出席率を前年度より向上させるよう工夫する。	総務部が企画し、全職員で取り組む。	B	出欠回収率は、4月、7月とも100%であり、当日参加率も前年度と比べ4月は8%増、7月は18%増であった。
		地域との連携	外部から講師を招き、保護者とともに思春期の生徒への対応や情報モラル教育等についての研修を実施する。 防災型コミュニティー・スクールを協議する。	保健環境部、生徒指導部、情報管理部が連携して計画し、7月開催の保護者会で実施する。 学校運営協議会を開催する。	B	7月保護者会で、本校スクールカウンセラーをコーディネーターとして招き、保護者と職員で協議形式の研修を実施した。参加された保護者からは高い評価を得た。

4 学校関係者評価

学校評価アンケートの各項目において、保護者、生徒ともに肯定的な数値が90%～100%と高いのは、職員と保護者との連携がきちんとなされ、生徒に対する丁寧な指導や関わり、着実な実践が行われているためであると思われる。本校が生徒にとって登校したいと思える学校であり、そのことが良好な出席状況等に繋がっているのであろう。和やかな雰囲気の中で温かい教育活動がなされている。総合的な学習の時間での「イコイバ」や主権者教育など多様な内容を丁寧に指導されている。

「学校満足度」（昨年度生徒89.7%→今年度生徒90.0%、昨年度保護者100%→今年度保護者100%）、「親身な相談」（昨年度生徒79.3%→今年度生徒95.0%、昨年度保護者100%→今年度保護者90.0%）など評価の高い数値が見られる。その相乗効果が「保護者との連携」（昨年度保護者100%→今年度保護者88.9%、昨年度職員90.9%→今年度職員100%）にも同様に高い評価の数値が出ているのであろう。また、ホームページの更新の回数やスピードが素晴らしいといつも拝見している。

5 総合評価

今年度は全体的に遅刻・欠席等が少なく、問題行動やいじめ事案もなく、落ち着いた学校生活及び授業態度であった。しかし、仕事のシフトが厳しい生徒や深夜までゲームをしている生徒の中には、生活のリズムを崩し遅刻する生徒がいた。保護者との連携が必要であり、今後も継続していかなければならない。

「わかる授業の徹底」と「個に応じた指導力の向上」を今年度の課題としたが、生徒による授業評価アンケートを実施し、職員の授業の工夫・改善を図った。また、「玉定チャレンジ」へ参加する生徒が増えたことや公開授業による研修を通して、職員の指導力向上を図る取組が実施できた。公開授業では、近隣中学校、教育事務所や保護者に対し案内を送付したが、その成果もあり、学校見学を希望する問合せが数件あった。

4年次生の進路指導においては、担任と進路指導部を中心とした全職員で関わり、進学や学卒求人による就職等それぞれの進路に対して、生徒の希望通りに決定することができた。また、就労経験のない2年、3年次生に対しては、インターンシップや職業理解講座等を通して、就労意欲の向上を図ることができた。

日頃の人権教育の視点に立った指導が、周囲に配慮する生徒の言動に表れている。イライラ感や無気力感を持つ生徒も徐々に自分の感情をコントロールした態度や発言ができるようになり、周囲と調和しようと努めている。また、他者を受け入れる寛容さも育ってきている。特別に支援の必要な生徒に対しては、荒尾支援学校、盲学校等の特別支援教育コーディネーターの協力を得て、職員研修を実施し生徒理解を深めた。

生徒会の活動を通して、学校行事等への生徒の積極的な関わりを促し、生徒が主体的に参加できるよう行事内容の工夫・改善を行った。今年度は昨年度より行事等への参加率も向上し、行事を楽しんでいる生徒が増えた。この活動の様子をホームページに適宜掲載し、保護者、地域へ多くの情報を発信することができた。

学校評価表の評価については、半数以上の項目で昨年度より肯定的な数値が上がった。5月の救急救命講習、11月の防災・消防火訓練では、生徒は例年よりも整然とした対応ができ、消防士の方からも高評価であった。**昨年度平均3.4B、今年度平均3.5A**である。また、進路講話や卒業生との懇談会などキャリア教育の推進の取組も**昨年度平均3.4B、今年度平均3.5A**である。人権教育に関する項目では、家庭への啓発の推進では**昨年度平均2.6C、今年度平均3.0B**、指導内容の工夫では**昨年度平均2.9C、今年度平均3.3B**となった。しかし、就労経験のない生徒が新たに就労することができず、全体として就労率が低下したため、キャリア教育の項目で**昨年度平均3.1B、今年度平均2.9C**と評価を下げた。また、家庭等の問題を抱えた生徒の事案に対し、組織的に十分対応しているがなかなか解決できていないため、関係職員による評価が下がっている。今年度も職員の組織的な関わりにより、生徒との良好な信頼関係を築くことができた。今年度の課題を更に次年度へ生かしていきたい。

6 次年度への課題・改善方策

第1に継続的な課題として「わかる授業の徹底」と「個に応じた指導力の向上」である。授業評価アンケートにおいて特に評価の低かった「ICT機器を活用した授業の工夫」、「双方向型の授業の工夫」を次年度への課題として授業改善に取り組んでいきたい。組織的な取組としては、今年度同様に「玉定チャレンジ」による基礎学力の向上のための講座と資格取得のための講座を開講し、参加者増加を図っていく。また、ユニバーサルデザインの視点に立った、授業での配慮が今後更に求められる。今年度は、盲学校から特別支援教育コーディネーターに來校していただき、生徒本人への支援と職員への助言をいただいた。次年度も職員研修等を通して個々の生徒に対する職員の共通理解を深め、適切な支援を行っていく。

第2の課題は「保護者との連携・連絡の徹底」である。行事等に関する生徒及び保護者への連絡は、書面だけでなく担任からの電話連絡も行われている。また出欠状況についても、担任が保護者と電話連絡を取っているため、生徒の学校での様子を保護者は理解されている。しかし、生徒と保護者との関係が良好でない場合、生徒の出席状況等の改善に繋がらないことが多い。担任、学校と保護者との連携を更に密にするためには、保護者会等の学校行事へ参加していただくことや学校及び家庭での面談の機会を持つことが大切である。次年度は、そのような機会を更に増やしていきたい。

第3の課題は「安易な進路変更をさせないこと」である。担任、関係職員と保護者との連携を密にしたため、生徒の高い出席率が得られた。生徒たちは授業や行事等に積極的に参加し、自分の将来の目標を持ち始めている。また、年度途中で進路変更を考える生徒に対しては、様々な視点での関わりや働きかけを行った。一人は9月末を持って通信制高校へ転学した。また、一人は出席時数不足のため、同じ学年の授業を次年度受講することになったが、職員の働きかけ等により学校を継続することとした。次年度においても、学校生活がスムーズにスタートできるよう特に新1年次生に注意を払い、情報を職員全員で共有し、今年度同様きめの細かい対応を心がけていきたい。